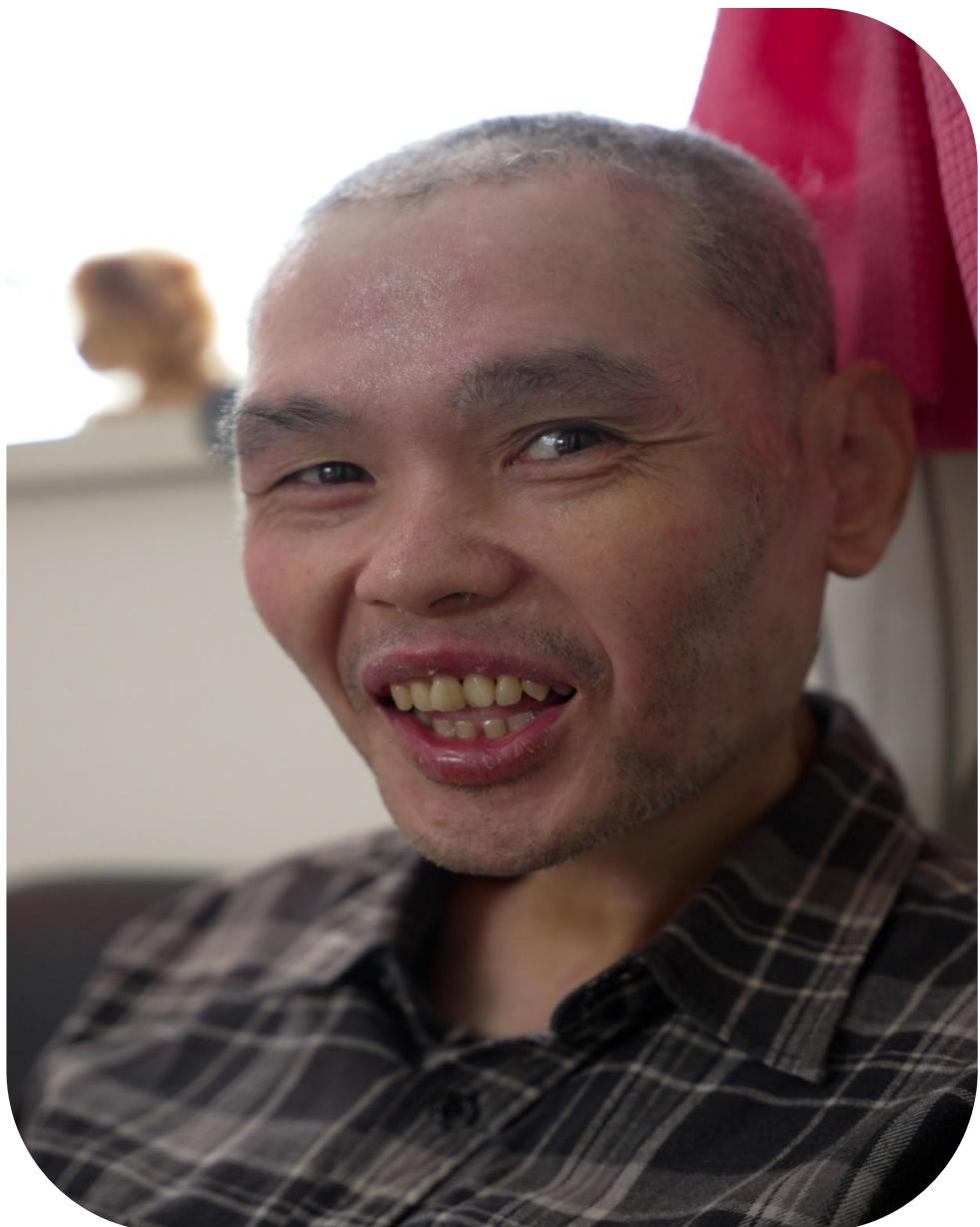


かずやさん30歳

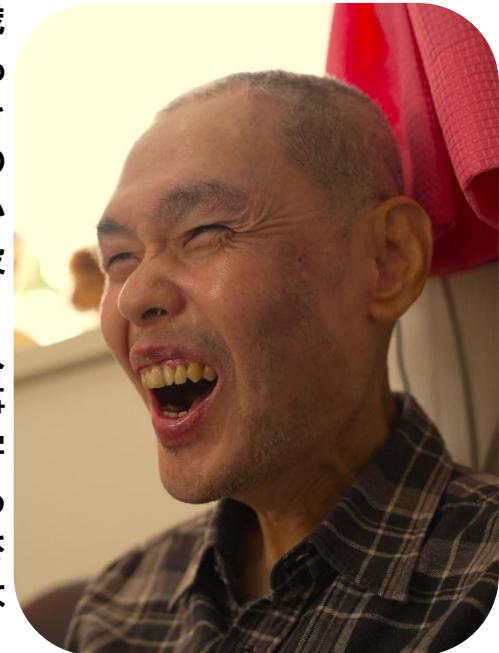
7号



かずやさん50歳、誕生日おめでとう！

尾野一矢さんについて

一矢さんは1973年3月26日座間市生まれ、50歳です。重度の知的障害と自閉症があります。愛情あふれる両親と姉と一緒に暮らしていましたが、共働きの両親が世話を続けるのが難しくなり、中学1年生のときに障害児向けの施設に入所しました。成人してからは23歳のときに相模原市緑区の県立障害者施設「津久井やまゆり園」に入所しましたが、2016年7月26日、障害者19人が刺殺、職員2人を含む計26人が重軽傷を負わされる「相模原障害者施設殺傷事件」が起きました。犯人はこの施設の元職員で「障害者はいなくなればいい」と主張するなど、障害のある人を差別・排除する考えをあらわにしました。一矢さんも首や腹などに重傷を負いながらも何とか一命を取り留め、徐々に回復に向かいました。



両親は重度の障害がある人が暮らす場所は施設以外ではなく、このまま施設での暮らしがずっと続くものと思っていた。しかし、重度の知的障害のある人が支援を受けながら地域のアパートで暮らす取り組みがある事を、映画「道草」(宍戸大裕監督)やNPO法人「自立生活企画」(東京都西東京市)との出会いにより知りました。集団生活を送る施設ではどうしても一矢さんのペースで生活することは難しく、もっと自由な生活をさせてあげたいという思いが両親の背中を押しました。そこで2018年8月から地域生活を見据えて、自立生活企画の介護者が週1回施設に出向き、家族と一緒に昼食を共にしながら一矢さんとの信頼関係を築いて行きました。そして2年後の2020年8月、故郷の座間市でようやくアパート生活を始めることができました。

施設での生活が計35年ほどに及ぶ一矢さんにとっては戸惑うことばかりの日々かもしれません。それは、私たち介護者も同じです。ともに悩み、そして楽しみながら手探りの日々を送っています。そんな一矢さんですが、いたって普通のおじさんです(笑)。ポテトサラダ、ハンバーグ、納豆、たくあん、板チョコ、缶コーヒーや「一本橋」という手遊びが大好きです。もし一矢さんが「一本橋」と言って手を差し出してくれたら、それは「友だちになりたい」というあなたへの親愛の証です。ぜひ相手になってください(介護者が遊び方をお伝えします)。

平日の日中は作業所で活動していますが、わが家である「かずやんち」(一矢さんはこう表現します)でのまったりとした時間が何よりも大好きです。気分が悪いのか、部屋で大声を出してしまうこともあります、この生活を大変気に入っています。私たちはそんな一矢さんをこれからも支え、共に生き、一矢さんの友だちの輪を広げたいと思っています。何かとご迷惑をお掛けしてしまうかもしれません、どうか温かく見守っていただければありがとうございます。

かんちゃん50歳の誕生日おめでとう！



一矢さん50歳の誕生日（2023.3.26）祝いをしました。
お祝いに、「みんなで読める 神奈川県当事者目線の障
害福祉推進条例 ～ともに生きる社会を目指して～」
の作成メンバーの猿渡達明さんが駆けつけてくれまし
た。



ブーケや一矢さんの好きなチョコレートなど、プレゼントしてくれました。

一矢さんのアパート暮らしの実際の話や、お互いの自立生活についてなど、話は尽きることはありませんでした。



みんなで読める 神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例 ～ともに生きる社会を目指して～ - 神奈川県ホームページ (pref.kanagawa.jp)

事件後のあるべき社会について…みなさんも是非考えて見てくださいね。





**施設での 35 年にも及ぶ生活、
痛ましい事件の傷を乗り越えて様々
な出会いから施設を出て、地域での暮
らしへとつながって行った 50 年を振
り返るとまるで奇跡のようです。**

これからも一矢さんの生きざま
が、事件後の新しいあるべき社会
の可能性を求めていく希望となる
ように、



**皆で力を合わせてやっていきたいと、
思いをあらたにしています。皆さんこ
れからもよろしくお願ひします。**

「私たちのことを私たち抜きに決めないで(Nothing About us without us)」を合言葉に世界中の障害のある人たちが参加し作成された「障害者権利条約」。批准国である日本に対し国連の権利委員会による初めての審査がスイスのジュネーブで2022年8月22日から2日間行われました。権利委員会は「(やまゆり園)事件を経て、このような施設で暮らす人達が沢山いる事について考え方を直した事はあるんでしょうか」と指摘。「障害のない人と平等に施設から地域社会で自立した生活へ移行することを目指し期限付きの数値目標、人材、技術、資金を伴う法的枠組みや国家戦略、その実施のための都道府県の義務付けを開始すること」を求めました。にもかかわらず国による地域移行の現状は年々減速しており、いまもおよそ約13万人が施設で暮らしています。次の審査は2028年、早急にヘルパーの育成など地域の体制つくりを進め「脱施設化」に向けた動きを実行していく事が求められています。



発行 かずやさんとその仲間たち

〒252-0005

神奈川県座間市さがみ野3丁目2-19-101

メール kazuya.ono811@gmail.com

Facebook “尾野一矢日記”

<https://www.facebook.com/onokazuyanikki>

HP “よってけ一矢んち” <http://ono-kazuya.com/>

発行日 2023年4月



“尾野一矢日記”



“よってけ一矢んち”